

# ウーラノス

## ウーラノス

「ΟΥΡΑΝΟΣ (ウーラノス)」は、「天」を意味するギリシャ語です。使徒パウロは、アグリッパ王に対する弁明の中で「私は天から示されたことに背かず」(使徒言行録26章19節)と語りました。この個所にも οὐρανόσの語が用いられています。

### 特集 NEW WAVE T.G.U. 工学のいま～

先端研究レポートII	1
歴史を伝え、今に導く	4
同窓生を訪ねて	5
学生たちは、今	6
協奏、そして共創へ	7
学長室より	9
大学院より	10
学部より	11
国際交流部より	13
研究室・センターより	13
図書館より	14
入試センターより	14
就職部より	15

Vol. 20  
2005  
OCTOBER

 東北学院大学 広報誌  
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

「省察」。数多くの研究・教育がそれぞれの責任において行われています。こうした研究・教育の成果は社会や教育の場に還元されるとともに、その意味内容は社会との関わりの中で絶えず問い直されていかなければなりません。決して独りよがり陥ることなく、個々の研究・教育を幅広い視座から省みて総括し、総合的に展開していくことが大切です。「反省なくして進展なし」に基づき本学に課せられた社会的使命を果たしていきたいと考えています。

写真:泉キャンパス ハイブオルガン

特集

「工学のいま～先端研究レポートII」

工学のいま

先端研究レポートⅡ

環境浄化で活躍する  
微生物たちの  
DNAを追って

工学部 環境土木工学科

教授 <sup>なかむら</sup> **中村** <sup>かんじ</sup> **寛治**

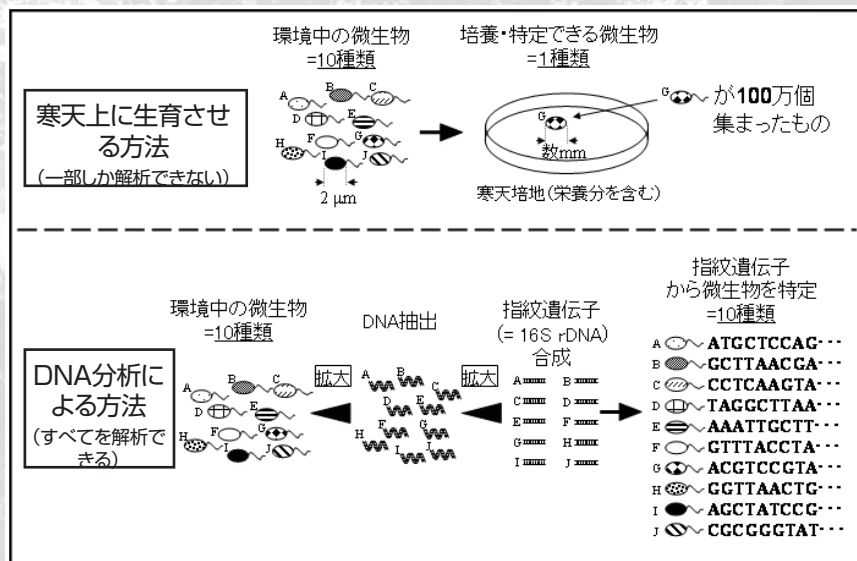


図1 DNAを対象とした分析の必要性

## 自然界における微生物の役割

自然界には、様々な微生物が生息し、環境中に放出された物質の分解に大きな役割を果たしています。この微生物の力を利用した浄化処理プロセスが「生物処理」と呼ばれるもので、家庭排水や、工場排水中の有機物(=汚染物質)分解に利用されています。分解された有機物は、最終的には微生物・炭酸ガス・水に変換されます。また、ある特殊な微生物は、人間が環境中に放出した有害な難分解性物質を分解、無毒化する能力も持っています。

## 汚染物質や有害物質を減らすために

これらの微生物を上手に利用すれば、有機物や有害物質を環境中から除去することができますが、それには微生物の挙動、つまり増えたり、減ったりする変動を追いかけて、その微生物の特性を知ることが必要となります。しかしながら、微生物はミクロンレベル(1 mmの千分の一)の大きさで、人間の目で直接見ることはできません。これまでは「栄養分を含んだ寒天」で微生物を一種類ずつ増殖させて研究していました。図1の上段がそれを示しています(図2は直径約10cmの寒天板上に実際に生育した微生物です)。しかしながら、この方法では寒天板上に生育できる微生物しか把握できません。本図では10分の1の割合(10種類の内Gのみ)で生育していますが、実際にはもっと少ない割合の場合が多いのです。ですから、大部分の微生物に関しては研究することができませんでした。

## DNAレベルでの微生物分析

このような、不完全な研究を根本から変えたのが、微生物のDNAを対象とした分析技術の出現です。この分析の流れは図1の下段に示されています。まず、環境中の微生物をろ過等で集め、微生物の中にあるDNAを抽出します。その中には、その微生物特有のDNA(16SrDNAという名前)があり、この部分のみを特殊な方法で合成します。16SrDNAは人間で言えば個人を特定できる指紋のようなものなので、指紋遺伝子と呼びましょう。合成された指紋遺伝子は約1500個の遺伝暗号(ATGCの4種類の組合せ)から成り立っており、これを解読します。ATGCの並びを決める操作を「DNA塩基配列の決定」といいます。図3に示すのが、本学のDNA塩基配列決定装置です。約2時間で3000の塩基配列を決定することができます。塩基配列が解読できたら、アメリカのミシガン州立大学にある大型コンピュータ

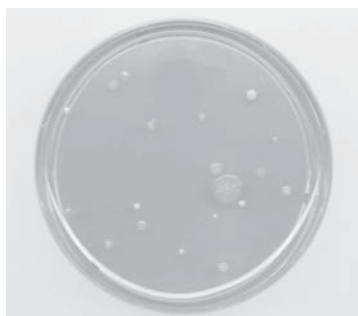


図2 寒天培地に生育した微生物



図3 DNAの塩基配列決定装置

中の、これまで報告されている約15万の微生物の塩基配列データとインターネットを使って照合します。自分の解析した微生物の種類がほとんど瞬時に明らかとなります。これで環境中のすべての微生物の種類が解明できるわけです。

## 土壌・地下水を浄化する微生物の発見

実際の研究では、この方法によって、トリクロロエチレンという有害な物質を分解する特殊な微生物、デハロコッコイデス細菌が日本国内に存在することを突き止め、その特性を把握することに成功しました。そして本細菌を利用し、トリクロロエチレンで汚染された土壌・地下水をきれいにする新しい生物処理技術を開発することができました。このように環境中の微生物を対象としたDNA分析はたいへん有用な技術であり、今後ますますその重要性を増していくものと考え、さらに対象分野を広げて研究を継続しています。

# 人に触れるロボット技術 ～マッサージロボットハンドの開発

工学部 機械創成工学科 助教授 <sup>かじ かわ</sup>梶川 <sup>しん や</sup>伸哉

最近、テレビやインターネットなど多くのメディアにロボットが登場しています。これらの中には人の形や可愛い動物の形態、しぐさを模倣したものが数多くあり、ロボットが人との共棲を意識したものになりつつあることがわかります。また、ご存知のように日本は急速に高齢化社会へと移行しつつあり、介護・福祉の現場や一人暮らしのお年寄りへのサービスなどが共棲型ロボットに期待される役割の一つと考えられます。サービスの内容では歩行や起き上がりなどの運動介助、スキンケア、マッサージなど人との接触を伴うものが想定され、安全性の確保が重要になります。こうしたロボットが人々に広く受け入れられるためには、サービスを通して“心地よさ”や“安らぎ”も与えることが必要となります。そのため従来の“硬い”、“強い”という特性のみでなく、“柔

らかさ”、“優しさ”もこれらのロボットには必要になると考えられます。

本研究室では、現在、人間に触れることを目的とした柔らかいロボットハンドの開発を行っています。最終的にはそのハンドを用いた“心地よい”スキンケアやマッサージ動作の実現を目指しています。このハンドの各指根の元関節ではシリコンゴム製のクッションがモーターで駆動される2枚のギアに挟まれています。クッションとギアの表面間の摩擦を利用することで指の回転運動を行います。また、接触時に指先に加わる多方向の力をクッションの滑りと弾性変形により吸収し、安全性の確保と心地よい柔らかさを実現しようとしています(図1)。さらに、クッションの内部の圧力変化を計測することで指先力の推定も行います。

指先力を知り、それを制御することで快適なスキンケア・マッサージ動作(指圧力)が可能となります(図2)。

一方、心地よい身体への接触作業を実現するためには、人間側の好みを把握する必要もあります。そのため、人の身体を様々なパターンで押し、そのパターンに対する心理評価を行っています(図3)。その結果、力を加え始める初期の制御が非常に重要で、特に力の増加率を抑えることが“優しさ”や“心地よさ”を感じさせる要件になることがわかりました。このように本研究室では高福祉社会の実現に貢献すべく、人にとって使いやすく、親しみの持てる人間支援システムの開発を行っています。そこでは従来の工学の知識に加え、人を知るということが非常に重要になっています。

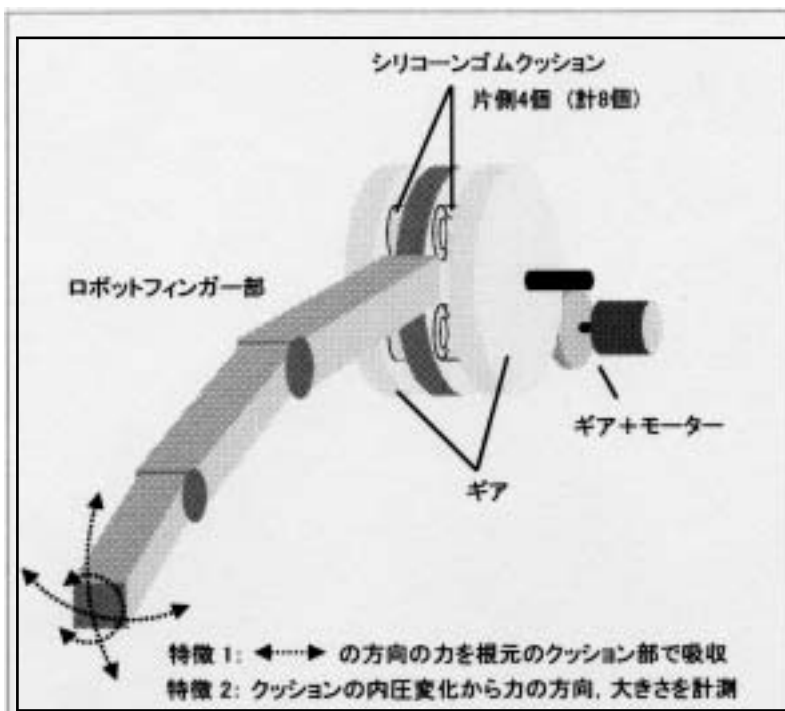


図1 関節モジュールの概要

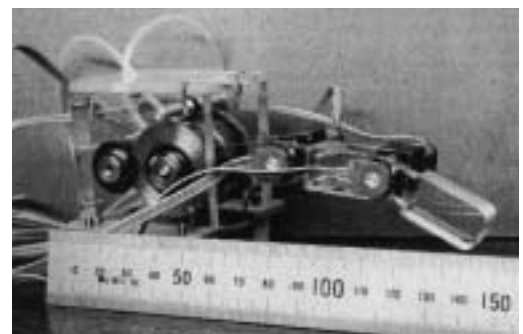


図2 製作したロボットフィンガー



図3 カパターンに対する心理評価実験

## 喜寿を過ぎても現役

### ～耐震工事が終わった土樋キャンパス本館～

経済学部教授 仁昌寺 正一

このたび耐震工事が終わった東北学院大学土樋キャンパス本館は、今から79年前の1926(大正15)年、東北学院専門部の校舎として建設されました。耐震耐火に構造上の工夫がなされ、外壁に秋保で産出されていた白色に近い石が使用されたこともあって、「建物の堅牢さ、設備の完備、輪奐〔大きくて立派なこと〕の美等に於いて東洋一の校舎」(『東北学院七十年史』)と称されました。また、高層建築物が林立している今日では想像もできませんが、「屋上よりの眺望は目前に向山と相對して西に経ヶ峰より青葉一帯の丘陵と山々、その裾を流れる広瀬川は遠く名取の平野を貫いて茫洋たる太平洋にそそぎ入るまで視界に入る悠々たる眺め」(同上)であったといわれます。

この校舎の建設プランが持ち上がったのは、高等教育に対する熱気が高まっていた大正初頭でした。当時南町通にあった専門部の移転・拡張計画として構想され、1916(大正5)年には、早くも建設用地の買収がなされました。しかし、校舎完成までには、それから10年もかかりました。その最大の理由は、1919(大正8)年3月2日の「仙台大火」で東二番丁の中学部の校舎と寄宿舎が全焼し、その再建事業に全力を投入しなければならなかったからです。因みに、耐火面に大きな工夫がなされたのは、この被災の教訓からでした。その後、この中学部の再建事業が一段落した1923年頃になると、再び土樋キャンパスへの専門部校舎建設プランが持ち上がってきました。そして1925年7月に着工、翌年9月に竣工しました。建設費23万円余の大半は、シュネーダー院長が、夫人とともに、1923年5月から翌年12月までの1年半の帰米中に篤志家から募ったものでした。

完成後、この建物は、存続が危ぶまれる場面に何度も直面しました。例えば、第二次世界大戦終了時の1945(昭和20)年7月10日の「仙台空襲」にも遭遇しました。このときは、本館西側のグラウンド中央に落下した焼夷弾の芯から直径百メートルの範囲内に、芯から別れた小型焼夷弾80発程度が落下したため、本館東側半分にあったさまざまな建物が全焼し、また礼拝堂の屋根には穴があきました。しかし幸いにも、本館には直接火の手が伸びず「本館西側の秋保石の壁に、火のために変色した部分」があっただけだったということです(志子田光雄「土樋キャンパス物語」、『東北学院資料室』創刊号、2001年12月、16ページ)。

また、1978(昭和53)年6月12日には「宮城県沖地震」がありました。このときのことについては、私も生々しく覚えています。当時、この建物の3階には大学院経済学研究科の教室、図書館、院生の合同研究室などが置かれていましたが、この地震が起きたとき、院生であった私は、教室で黒須徹教授(故人)の講義を聴いていました。突然の激しい揺れに、板書していた教授が転びそうになって机にしがみつきました。また窓からは、大きな黒い物体がポタポタと落下していくのが見えました。後から聞くと、それは窓の上部に据え付けられていた庇(ひさし)の石だったそうです(ですから、今日でもその庇はありません)。

このように、土樋キャンパス本館は、今日まで幾多の受難に耐え抜いてきました。人間の年齢にしますと喜寿を2年も越えたことになりましたが、今後も「現役」のまま、東北学院に集う人達とともに歩いていってほしいものです。



耐震工事が終わった土樋キャンパス本館



タレント・声優

やま であ こう いち

山寺 宏一さん

**はじめに、山寺さんが本学へ入学された経緯をお聞かせください。**

高校時代はものまねタレントに憧れていたのですが、まあ無理だろうと思いき、まずは大学に入ろうと思ったわけです。東北学院大学を選んだのは、身近にあったから。地元にはなかったんですね。経済学部に入ったのは政治経済が好きだったからです。

**大学生活の中で特に印象に残っていることがありましたらお聞かせください。**

東北学院大学の落語研究会に入学し、そして卒業したと言ってもいいほど、落研の活動にのめりこんでいました。1日中、部室にいたんじゃないでしょうか。あとは学食と(笑)。1年生の後半から会長をしまして、大学祭だけでなく自分たちで企画する発表会を何度も行っていました。市内のホールを借りて寄席を行うのですが、街中を練り歩いてピラ配りをよくしましたよ。結構お客さんは入りましたねえ。

**山寺さんの現在のお仕事についてお聞かせください。**

声優としては、洋画の吹き替えやアンパンマンの『釜飯どん』役、ポケモンなどアニメの仕事もしています。今はテレビ東京の情報番組『おはスタ』でメイン司会をやっているのですが、地元宮城では放送されていないんですよ。だからこっちで決めポーズの『おは』をやっても、「慎吾ママの真似だ」と言われてしまうのが残念なんです。最近は『ものまねバトル』にも出演するようになりまして、高校時代の夢がやっとなったかな…と思っています。

**山寺さんが現在のお仕事を始められるようになったキッカケを教えてください。**

大学3・4年生の時に会社訪問などの就職活動をひと通りやってみたのですが、サークルでの活動が影響したのが「自分で何かを表現したい」と思うようになっていったんです。その時、ふと大学生協の就職関連書籍を見ていたら『声優になるためには』という本と『俳優になるためには』という本が置いて

ありまして、即「これだ!」と思ったわけです。結局、その本に載っていた『東京俳優生活共同組合養成所』の試験を受け、2年学んだ後、この世界に入ったわけです。

**本学で学び、過ごしたことが現在のお仕事にどのようにいかされていますか?**

今の仕事をしているのは、東北学院大学に入学し落研に入ったことがキッカケです。いわば原点ですね。同窓生にもいろいろところで会うんですよ。それぞれの活躍を聞くと本当にうれしい気持ちになりますね。ふるさとを離れて東京にいるわけですから。OB同志が気楽に話せるというのがいいですね。自由な校風のお陰なのかな。

**『みやぎ夢大使』もされていますが、地元に対する思いをお聞かせください。**

宮城訛りが好きなんですけど、通常の仕事では標準語を使わなければならないんですよ。洋画の吹き替えなどもありますし。でも、アンパンマンの『釜飯どん』の仕事を受けたときに、これは方言で行こうと思って実際にやりました。しかし、テレビ局にクレームが来てしまいました…。東北の方から「東北を馬鹿にしてんのか!」と。局側で「声優さんが宮城の方なんです」と言ったら納得してくれたそうです。まあ、そうやって方言を使うのも私の夢大使としての役目かと思っています。

**本学同窓生として、後輩へのメッセージや本学へ望むことなどお話しください。**

小学生にもよく言うんですが、何か自慢できる大切なことを見つけてほしいですね。大人になると、バランスを考えて出来ないことも多くなってくるから、自由な大学生のうちやりたいたいことを見つけてほしいです。東北学院大学は、東北唯一の総合大学。東北全域から学生が集まってくるのも魅力でしたし、高校時代に比べるとずいぶん世界が広がりました。特に思い出の詰まった土樋キャンパスは、街の中にあるのに自然もいっぱいあって本当に大好きなんです。いつまでもこの場所にキャンパスがあることを願っています。

## profile

山寺 宏一 (本名同じ)

1961年6月17日 宮城県生まれ  
東北学院大学経済学部卒業後、第14期俳協養成所に進み、以後俳協所属。1993年、東北新社「優秀演技賞」受賞。

## 主な活動

アニメ声優 / 「それゆけ!アンパンマン」「ポケットモンスター」他  
洋画吹き替え / 「アンタタッチャブル」ケビン・コスナー、「カリフォルニア」ブラッド・ピット、「スターウォーズシリーズ」ハリソン・フォード、「バック・トゥ・ザ・フューチャー PART①～③」マイケル・J・フォックス 他

# INTERVIEW

## 学生たちは、今



### 「教育実習を 経験して」

経済学部経済学科4年  
い き さ と み  
**壺岐 里美さん**

教育実習をすることは、私の長年の目標であり、教師は私にとって憧れでした。この実習は先生として教育現場に立てる第一歩なので、楽しい学校生活を期待しはりきって挑みました。

しかし、初日から現実の厳しさを目の当たりにし、三週間続けられるのか不安になりました。不登校の生徒、授業中に立ち歩く生徒など、荒れている現状に授業をすることより、生徒とどう接していくかが私の課題でした。最初は誰も話をしてくれず落ち込みましたが、きっと私の中に不良という偏見があったのだと思いました。先生方は生徒一人ひとりの状況に合わせて話し、何か悪いことをしても責めることなく冷静に対処されていました。先生方は、人を相手にする仕事だからこそ正面から向き合い、同じ目線で話をしていました。私も最後は素直に接することができました。学校は毎日が発見と衝撃の連続です。この実習で私は人間的に成長できたように思います。



### 「就職活動を 経験して」

文学部英文学科4年  
せ と ひろ あき  
**瀬戸 博昭さん**

私の就職活動はいろいろな面でとても大変でした。しかし、実社会に飛び込む準備として多くのことを学ばされた非常に意味のある期間だったと感じています。

私は製薬会社の営業職として位置づけられているMRという職種で内定を頂きました。しかし、最初からMRを志望していたわけではありません。突然の母の入院、手術という出来事により医療業界に興味を持ち始め、文系の私でも活躍することができるMRに興味を持つようになりました。このように就職活動は、あるきっかけで自分の方向性が決定することがあります。就職活動中はいろいろな事に関心を持ちながら生活していくと良いかもしれません。

就職活動を終えた現在、正直言って内定を頂いた嬉しさよりも、本当に実社会でやっていくことができるのだろうかという不安な気持ちのほうが大きいです。しかし、強い気概を持ち、そして自分自身を成長させながら頑張っていきたい、そう思っています。

## 「サテライトキャンパス」の現状と課題

仙台学長会議が提案して発足した「学都仙台単位互換ネットワーク」には、仙台圏（山形をも含みます）に位置する多くの大学・短期大学・国立高専が加盟しており、各校から膨大な数の科目が提供されています。加盟校の学生は、他校の特色ある科目を幅広く履修することができるようになったのです。

この「ネットワーク」に加盟している組織のうち、宮城教育大学、東北文化学園大学および本学に仙台市を加えた四者の間で、相互に学生を派遣しあうだけでなく、交通の便が良い仙台市中心部に共同利用できる施設（青葉区一番町の「日専連ビープ」）を確保し、そこで単位互換のための授業を開講しようという計画がまとまり、「学都仙台サテライトキャンパス」が誕生しました。それと同時に、各校が従来それぞれのキャンパスで開催していた市民向けの公開講座の一部を、「サテライトキャンパス」で実施することになったのです。2005年度からは宮城学院女子大学がサテライトキャンパスの

協定（以下、「協定」と表記します）に参加し、運営の基盤および提供される授業科目の範囲が、一層拡大されました。

この「サテライトキャンパス」事業においては、協定を締結している大学は、単位互換のための授業、および市民向け講座の両方を開講しますが、協定を締結していない組織でも、「ネットワーク」に参加していれば、市民向けの公開講座を実施することができるようになっています。各校の事情に応じて、授業と公開講座の両方を実施してもよいし、どちらかだけの参加でもよい、という形にして、垣根を低くしてあるわけです。

今年度までの事業実施状況を概観しますと、授業開講数は増加しつつあり、公開講座も協定締結校以外からも提供されていて充実してきていますが、協定締結校が多くないこともあって、授業数はまだそれほど多いわけではありません。利用者の数の点から見ますと、受講者数の多い授業、参加者の多い講座もありますが、授業の受講者数、および公開講座の参

加者は、平均すると、まだまだこれから増える余地が十分にある、というところです。しかし、①この事業がまったく新しい試みであり、各校の学生や市民にもPRが必ずしも徹底されてはいないこと、②協定締結校が増えていくものと見込まれること、③本学で数年前に始まった学部・学科間の単位互換制度も、当初は利用する学生が少なかったものの、昨年度から飛躍的に制度を利用する学生が増えたこと、などを考え合わせますと、将来は利用者が増加するものと思われれます。

今後の課題としては、①協定締結校が増えるよう働きかけていくこと、②授業や公開講座をサテライトキャンパスで実施する学部が増えるようご理解いただくこと、③一層交通の便が良く広い施設を確保し、利用しやすくすること、などがあげられます。本学は、高等教育および地域の生涯教育をリードする大学として、この事業に真剣に取り組んでまいりますので、「サテライトキャンパス」をなお一層ご支援くださりますようお願いいたします。

## 約4,300人が東北学院大学を体感—オープンキャンパスを開催—

8月6日(土)、7日(日)の両日に『オープンキャンパス』が開催されました。会場となった泉キャンパスと多賀城キャンパスには、約4,300人も高校生や一般の方々が訪れ、キャンパス内を自由に見学したり、模擬授業に参加するなど、“大学生”を体験しました。来学された高校生たちの声を交えて、開催の様子を報告いたします。

メイン会場となった泉キャンパスでは、本学のシンフォニック・ウィンド・アンサンブル(S.W.E.)とチアリーディングチームによるオープニングセレモニーが行われました。キャンパス内では、入試制度を説明する「入試説明会」や各学科の教育内容を教員と在学生在が説明する「学科ガイダンス」、授業を体験する「模擬

授業」などが行われました。—「語学に興味があるので、言語文化学科の模擬授業を受けました。外国人の先生の授業だったのですが、高校生の私にも分かりやすく、楽しんで受けることができました」（高校3年男子／宮城県）—「経済学部を志望しています。大学でもっと社会のことを知りたいと思います。欲張りなことを言えば世界のことも。国際交流校との留学制度があるそうなので、それも楽しみです」（高校3年女子／宮城県）—「設備が整っていて環境もいいですね。息子には、ここでいろんなことに挑戦してほしいと思います。大学生活は一生に一度ですから」（高校3年生男子保護者／山形県）

また、礼拝堂では3回にわたって「パイオルガン演奏」が行われ、その荘厳な響きに、来学者は聞き入っていました。

本学に入学して来るであろう高校生や保護者の方々の真剣さに接した教職員、在生たちは、これまでも増して本学を魅力ある大学にしていかなければならないと実感したようです。





## 大学と家庭を結ぶ - 後援会総会と地区後援会を開催 -

5月21日(土)に泉キャンパスを会場として、在学生のご父母を対象とする「後援会総会」を開催しました。当日は約1,500名を超えるご父母を迎え、総会では、大学の近況や年間の活動方針が報告されました。また、大学礼拝からはじまる「大学開放プログラム」も同時に開催され、多数の方々のご出席をいただくことができました。ご父母からの意見を踏まえ、大学と家庭の連絡を深め、学生がより良い大学生活を送ることができるように改革を進めております。また、「地区後援会」も7月から9月までの夏期休暇期間を利用し、北は北海道札幌市、南は東京都までの計29会場で開催しました。大学の近況と今後の計画についてお知らせし、ご理解をいただくと同時に多くのご父母の方々との交流を深める機会を持つことができました。



パイプオルガンコンサート



個別面談 (総会:就職部)



個別面談 (秋田地区)



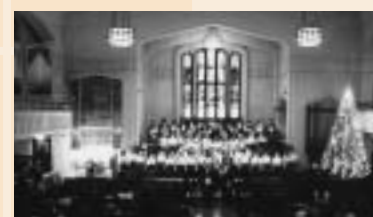
全体報告 (函館地区)

column  
WELL

## 公開クリスマスのご案内

土樋キャンパス・泉キャンパス

本年の公開クリスマスを下記のとおり開催いたします。厳かな雰囲気の中での説教、礼拝堂に響き渡る荘厳な演奏をお楽しみください。多くの方々のご参加をお待ちしています。



### ■第17回泉キャンパスクリスマス

パイプオルガンの演奏や聖歌隊の合唱、キャンドルサービスなどが行われます。また、小さなお子さまにクリスマスプレゼントも用意しています。

日時 平成17年12月2日(金)  
18時30分～

場所 本学泉キャンパス礼拝堂  
説教 越山哲也執事(日本聖公会 聖ペテロ教会、平成11年本学文学部キリスト教学科卒業)

問い合わせ先  
泉キャンパス庶務係  
TEL. 022-375-1122

### ■第55回公開東北学院クリスマス

聖歌隊と室内アンサンブルによるオラトリオ「メサイア」の演奏やキャンドルサービスが行われます。

日時 平成17年12月16日(金)  
18時～

場所 本学ラーハウザー記念礼拝堂 (土樋キャンパス)  
説教 迫川道子牧師(日本基督教団 広瀬台教会、昭和43年本学文学部基督教学科卒業)

問い合わせ先  
法人事務局庶務部庶務課  
TEL. 022-264-6464

# From the President.

学長室より

## 「スポーツのすばらしさ」

学長 ほし みや のぞむ 星宮望

今年、5月下旬には青山学院大学との第56回総合定期戦(於:仙台)を、6月中旬には北海学園大学との第51回総合定期戦(於:札幌)を行いました。2つの大学と継続的なスポーツの交流が行われていることは大変うれしいことです。今年はその定期戦の開会の挨拶で、「スポーツのすばらしさ」について話させていただきましたが、その理由を少し述べてみたいと思います。私自身、子供の頃には虚弱児で、小学校の時には病気で1年以上学校を休んだために1年生を2回やったほどでした。また2年生の時に転校していじめにあったほどひどいのですが、父がキャッチボールの相手を継続的にしてくれて、野球の腕をあげるようになりました。そして4年生のときにピッチャーとして上級生に勝ってからは、いじめられなくなりました。その後、東北学院中学・高等学校に在学中には卓球部に所属して、青春に情熱を傾けました。キャプテンを務めたこともあります。一番の成長期でしたので、熱中しすぎて右手が左手よりも1cmも長くなったほどです。この時の経験は体力的にだけでなく精神的にも

たくましくなるきっかけになったと思います。これに関連して、そのずっと後ですが、東北大学工学部の助教授であった1975年頃にスウェーデンに1年以上滞在して研究生生活をしたときですが、ウプサラ大学の家族持ちの研究者のアパート村で、スウェーデン人の学生はもちろん、南米のポリビアや中東のトルコ、アフリカのエジプトなどから来ている研究者や学生と英語で、あるいは、たどたどしいスウェーデン語で会話をしていました。しかし、コミュニケーションをとる上で最も効果的であったのは、そのアパート村で私が卓球のナンバーワンであったことです。彼らがしょっちゅう電話で私に挑戦を申し込んで来て、親善を深めることができました。スポーツの素晴らしさを味わった一例です。話を大学時代の1960年代に戻しますと、ちょうど大学に入学した1960年には日米安保条約反対闘争が全国の大学に広がり、半年間ほとんど授業が出来ないほど混乱していました。卓球に限界を感じていたために日本武道にあらがれて弓道部に入り、毎日、弓ばかり引いていました。2年半みっちり修練を積ん

で、3年生の夏には第1回七大学総合体育大会に大将(オチといひます)として参加し、幸い優勝することが出来ました。そして、3段の段位をいただきました。日本武道の良さがある程度吸収することができ、かつまた、ぎりぎりの緊張の中でも簡単には動じない修練を積むことができました(残念ながら、弓道で段位が上がるとつれて神道との結びつきが強くなりますので、キリスト教の家庭で育った者には違和感が強くなってやめてしまいました)。その後も大学院生と助手の頃にはテニスに没頭し、30年以上続けています。テニスは国際的なスポーツですので、学会やシンポジウムで外国に行ったときに、外国の研究者と時々一緒にプレーすることもあります。研究発表以外でのスポーツを通した付き合いも広い人的な交流には有用であると思っています。このように、スポーツは、肉体的にも精神的にもたくましく成長するのに大変良いと同時に多くの友人を獲得し、交流を広げていく上でも良いと思います。特に、若い学生諸氏がスポーツに参加すること(見るだけでなく)をお勧めいたします。

# Graduate School info.

大学院より

## 法学研究科

### 「行政書士のための特設講座」2年目へ

本年2月、効果測定に合格した45名の受講生に、日本行政書士会連合会(日行連)会長と東北学院大学大学院法学研究科長連名の「履修証明書」を交付して、昨年度の講座を終了しました。50名の受講生を受け入れて発足し、9割の受講生がゴールしたことになります。このなかには、山形、福島、岩手、青森からの計8名の受講生も含まれています。

開講した「家事審判法／民法の親族、相続」(鈴木ハツコ講師)、「行政救済法」(松澤陽明講師)とも、授業が終わるたびに受講生の拍手が起こるという盛り上がりでした。もちろん、両講師の充実した講義あつてのことです。

この特設講座は、日行連会長から、司法研修のため、行政書士会会員を本学大学院の科目等履修生として受け入れてほしいという要請を契機に発足したものです。しかし、科目等履修生として受け入れるには、本学の現行制度とは不整合な点がありました。そこで行き着いたのが、この「特設講座」でした。

しかし、授業が進む過程で、関係者一同この「特設講座」形式を、少なくとももう1年継続することが必要と考えるようになり

ました。熱意のある行政書士の皆さんを広く受け入れられることなどの利点もあるからです。

今年度は、昨年度の経験を踏まえて、日程、会場とも改善し、昨年度と同じ講師によって開催されています。期間は、9月17日から12月17日までの土曜日の午後、10日間です。今年度も日行連から推せんされた50名の受講生が参加しています。

大学院教育と大学院への社会(人)の期待とを架橋する一つの試みとして発展させていきたいものです。



昨年度のオリエンテーション風景

## 人間情報学研究科

### 近況

時間がたつのは早いもので、ついこの間に平成16年度の学位授与が終わったと思ったら、あっという間に平成17年度もう半分が経過しようとしています。

今年度は博士課程前期課程3人、後期課程2人の新人を迎えています。本研究科の特徴を反映してか、5人のうち4人までが社会人です。

また、今年度より研究科スタッフに新たに10人の先生をお迎えすることができました。それにあわせてカリキュラムの改編が行われました。広領域の学際的な研究が一層充実することになるものと期待しています。

さて、今年度より人間情報学研究科では「特別入試」の枠を教養学部から本学全学部へ拡大したところ、さっそく他学部からの受験がありました。人間情報学研究科に関心のある方は、

是非お問い合わせください。

この7月から、客員教授としてフィリップ・グローブ氏をお迎えしております。ベネズエラからの国費留学生、前期課程2年生のハビエル・サラザールさんとともに、本研究科の国際交流に一役かっただいています。グローブさんは、視覚研究の世界的な中心のひとつ、カナダ、ヨーク大学で学ばれ、両眼視に関する独創的な研究が評価されて、日本のATR人間情報通信研究所の研究員として2年間活躍した後に、両眼立体視と錯視研究の世界的権威、ギラム教授と共同研究中の気鋭の若手研究者です。本研究科の櫻井研三教授と来年の3月まで共同研究を行うことになっていますが、院生諸君にとっても色々な面で刺激になると思っています。

### 経済学部

#### 経営学科:平成18年度から新カリキュラム導入

経営学科は、現在24人の専任教員スタッフを擁し、3つの専門入門科目と、16の専門基礎科目、25の専門応用科目、ならびに24の演習、そして文献講読と総合講座を開講しています。しかし近年の企業における社員の雇用形態の変容、ならびに社会が大学に求める学生像の変貌などを見据えつつ、経営学科ではカリキュラムの見直しに着手しました。それに際して次の3つのポイントを、今次カリキュラム改訂の柱として明示することになりました。

ポイント1は、「地域に密着した研究と教育」です。地域伝統校としてすでに多数のOBを地元各界に送り出している経営学科は地域の政財界とも様々な関係を有し、地域に密着した研究と教育を実践しています。そうした本学科のメリットを活かして、地元企業の経営者をお招きして経営の実像を直に学ぶ「総合講座」のほか、地元地域をフィールドとした調査研究を実施するゼミなど、地域との連携を培ってきた経営学科ならではの実践学習の場を一層強化することになっています。

ポイント2は、「専門職業人をめざす多様なプログラム」の提示です。経営学科が用意した様々な専門科目を、ここで学ぶ学生の将来の進路を想定した専門科目の履修モデルを提示することになりました。たとえば「グローバルビジネスマン」、「企業経営者・起

業家」、「会計プロフェッショナル」、「ファイナンス」、「マーケティング」などのモデルがそれです。これによって学生の皆さんが自らの将来像と重ね合わせて、様々な専門科目のうちどういった科目を選択的に履修すればよいか分かりやすくなります。

ポイント3は、「ビジネスを見通す広い視野の獲得」です。現代の複雑化する社会の中で、ますます多様化する企業像、商業活動を的確に捉えるためには、経営学全体を見通すより大きな視野が求められます。そこで経営学科では「経営学入門」と「会計学入門」ならびに「情報処理入門」の3つの入門講座を用意しました。そこでは経営学のなかでの各専門分野の役割を理解するとともにビジネスの全体像を学ぶことができます。

そのほか、マーケティング、ファイナンス、コーポレートファイナンス、数量ファイナンス、基礎統計、経営数学、銀行経営論、財務会計論といった専門科目が新たに導入されるほか、現行のいくつかの専門科目は配当学年の前倒し（例えば3年次のものを2年次とする）といったことが行われ、就職活動の前倒し化に対応しつつ、より早期の専門教育の充実をめざしています。

このカリキュラムは平成18年度入学生から逐次適応されます。

主要専門科目一覧（この他に演習、文献講読、総合講座などがあります）

1年次	2年次	3年次	4年次
<ul style="list-style-type: none"> <li>経営学入門</li> <li>会計学入門</li> </ul>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎統計学</li> <li>情報処理概論</li> <li>企業論</li> <li>商業史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営数学</li> <li>マーケティングI</li> <li>流通論</li> <li>商業政策論</li> <li>経営心理学</li> <li>ファイナンスI</li> <li>経営管理論</li> <li>経営史</li> <li>財務会計論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティングII</li> <li>商品学</li> <li>保険論</li> <li>国際金融市場論</li> <li>ファイナンスII</li> <li>コーポレート・ファイナンス</li> <li>経営戦略論</li> <li>比較経営論</li> <li>マーケティング管理論</li> <li>国際経営論</li> <li>経営分析論</li> <li>国際会計論</li> <li>税務会計論</li> <li>会計情報システム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貿易論</li> <li>商品学実習</li> <li>銀行経営論</li> <li>証券市場と企業経営</li> <li>数量ファイナンス</li> <li>サービス経営論</li> <li>人的資源管理論</li> <li>経営組織論</li> <li>連結財務諸表論</li> <li>管理会計論</li> <li>監査論</li> <li>原価計算論</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>商業簿記I</li> <li>商業簿記II</li> <li>工業簿記</li> </ul>			

### 電気情報工学科:平成18年度から新体制へ移行

平成18年度に実施される学部改組により、電気情報工学科も新しく生まれ変わります。現在の電気情報工学科は、電力・制御系、情報・通信系、電子・材料系の3系を柱としていますが、そのなかの電子・材料系は改組に伴って新設される電子工学科に組み込まれ、新電気情報工学科は、電力制御系、情報通信系を両輪とする学科体制になります。

主な変更点は、まず第一に、教員スタッフの学科間移動や、情報教育担当教員の新規採用などによる情報教育環境を整備・強化し、情報に関する教育内容の一層の充実を図っている点です。第二としては、教養および専門基礎教育部分に少人数教育体制を取り入れ、教育効果の向上を図っています。第三は、工学部全体の方針に従い、高等学校の新教育課程では手薄となりました電気情報工学を学ぶ上での基礎学力として重要な基礎数理科目を、より充実した形で1年次に配置している点です。

情報通信系では、現在の高度情報化社会を支える情報技術(IT:Information Technology)を構成する4種の基盤技術、すなわち情報変換技術、情報処理技術、情報伝送技術、情報交換技術の基礎として、信号変換・処理技術、通信ネットワーク技術、コンピュータ技術、アンテナ技術、無線通信・光通信技術、

不要電磁波対策技術など、様々な知識と技術を十分習得できるようにカリキュラムを編成しています。

一方電力制御系では、必須の社会基盤である電力の不安定の供給を維持する技術と、人にやさしく、かつ地球環境と調和したクリーンな技術が求められる中で、その基礎を十分習得できるよう、電磁気学、電気回路学はもとより、電子回路、制御理論、発送電等電力関連、エネルギー変換、そして学際領域に至る多様な基盤技術のための科目を揃えました。

またIT関連では、コンピュータの仕組みや利用法に関する知識や技術を、どちらの系を選択しても習得できるように、関連科目を系共通として配置しています。

学科の研究活動としては、環境を考慮した微風発電システム、電気自動車用高効率モータ、ウミホタルの遺伝子組込み細菌によるDNA損傷の定量的調査等のほか、海中作業用ロボットへの非接触給電、リニアパラメトリックモータ等の研究、電力の高効率・安定供給のための分散電源の導入と電力品質及び系統連系、新型電力グリッドの研究など、情報通信関係では、暗号、電子透かし、CDブートLinuxサーバ、グリッド計算機、GPS用アンテナ、小ゾーン無線通信システム、衛星通信実験などの研究が行われています。

## 輝く教育研究

### 東北学院オリジナル日本語フォント(TGフォント)の作製プロジェクト 工学部 助教授 おの 小野 たかし 孝

最近の情報教育(IT教育)環境のなかで新しい動きが芽生えてきています。それは「オープンソース(OSS)によるIT教育」というテーマです。オープンソースはその内部が完全に公開されており、内容の改編や改良を使用者が自由に行うことが出来るという大へんに大きな特徴を持っています。

本学でも、このオープンソースのひとつである「Knoppix」を使用した新しいIT教育システムの導入が工学部で2年前より開始され多くの成果を挙げてきていますが、講義などで使用するためにはシステムに含まれる「日本語フォント」が大へん少ないという問題点が見受けられました。

今回の研究は「万人が無償で自由に使用できる日本語フォント」を「本学独自に」作製し広く世に公開することを目的としています。

フォント作製のためのソフトウェア基本構成は、昨年既に終え、現在ひらがな、カタカナ、アルファベットならびに数字の作製を完了、引き続き第一水準の漢字の作製に着手しているところです。

最後に、本研究で使用する文字原本の作製に御尽力いただいた仙台在住の書道家菊池すぎ子氏に深く感謝を申し上げる次第です。

## International exchange info.

### 国際交流部より

## 派遣留学生の歓送会

政府の留学生10万人受け入れ計画が達成された今、双方向の留学生派遣と質の向上が強く求められています。本学では、建学の精神に基づいて、グローバルな視点を身につけ、国際交流に寄与する人材を育成するために、留学生の交換事業を行っています。本学には、留学を希望する学生が多数おりますが、本年もその中から選ばれた(交換)留学生を協定校へ派遣する時期となりました。学生交換協定を締結している9大学のうち5大学に合計28名の学生を派遣することになりました。1年間にわたる交換留学生として7名、第33回アーサイナス大学夏期留学に14名、そして平澤大学校の韓国語・韓国文化夏期講座に7名です。去る7月14日に土樋キャンパス842号教室において、本年度留学生歓送会が開催されました。星宮望学長によるはなむけの言葉の後、以下の留学生代表が挨拶をし、留学の決意を述べました。

1. 交換留学生代表 大元 祐介  
(文学部3年)
2. アーサイナス大学夏期留学生代表 伊藤真理子  
(文学部3年)
3. 平澤大学校夏期語学研修参加学生代表 佐竹 早苗  
(教養学部4年)

留学が実現するためには、学生本人の努力とともに、受け入れ大学と送り出し大学の教職員によるさまざまな形での協力が不可欠です。“Together we can,” 「皆でやればできる」というのが、ある国際的な奉仕団体の標語になっています。また、「森は1本の木から始まる」といわれるように、学生一人一人があつての大学です。私ども国際交流部では、学生交流事業においても、各方面と協力しながら、学生が留学目的を十二分に達成し、元気に帰国できるようサポートを続ける所存です。

#### 国際交流協定校と協定対象校\* (2005.4.1現在)

University of Durham ダラム大学(イギリス)  
University of Ulster アルスター大学(イギリス)  
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)  
\*Universitaet Trier トリア大学(ドイツ)  
Universite de Savoie サヴォア大学(フランス)  
Nankai University 南開大学(中国)  
Pyongtaek University 平澤大学(韓国)  
Daebul University 大仏大学校(韓国)  
\*The University of Sydney シドニー大学(オーストラリア)  
University of New South Wales ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア)  
University of Victoria ビクトリア大学(カナダ)  
Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)  
Franklin and Marshall College フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)

問い合わせ先 国際交流課  
TEL.022-264-6425/6404  
E-mail ico@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp

## Institute for Research and Center info.

### 研究所・センターより

## 東北学院英学史資料収集

### いよいよ院時代へ!! 英語英文学研究所

仙台神学校時代以来の東北学院英学史の編纂のために収集している資料の一部を『東北学院英学史年報』として公にする当研究所の事業は今年で27年目を迎えます。最近発行の第25号と第26号には、東北学院の高等専門教育の一翼を担う大学院文学研究科英語英文学専攻の創設当初(昭和39(1964)年)から10年間のカリキュラムと、そこで学んだ同窓生研究者の研鑽の思い出が特集されています。荒川光男・柴田良孝両東北学院大学教授、千葉義也鹿児島大学教授、村田俊一弘前大学教授の4氏が寄稿され、いずれも、学問と人との緊密な関係と謳歌した研究の楽しさを書いております。入学試験科目から、語学・文学などオールラウンドな教養が入学の前提になっていたことも伺えます。これまでの卒業生は修士・博士合わせて約240名で、そのうち、国公立大学・高専などのいわゆる高等教育機関に80名、全国の高専等に約150名が勤務しています。

この研究者・教育者養成の基盤は、すでに学部教育の伝統の中にあつたことは言うまでもありません。資料収集で訪ねた1959年卒の高原脩神戸市外国語大学名誉教授(現関西外国語大学教授)と1956年卒の大友賢二筑波大学名誉教授(現常磐大学国際学部長)は卒論に英文学を選び、高等学校の教諭を経て、大学に勤められました(専門はそれぞれ語用論と応用言語学です)。今後の東北学院英学における学際的かつ実用的な研究と教育とに示唆するものがあるように思われます。



問い合わせ先 英語英文学研究所  
TEL.022-264-6401

## Library info.

### 図書館より

## 「東西文化の接触と相互影響、および ＜ウエスタン・インパクト＞政策形成 の基礎文献に関するコレクション(略 称:アジア・コレクション)」の紹介

本学が創立120周年を迎えるにあたり、その記念事業の一つとして後世に残る貴重な資産、すなわち他にあまり類例を見ない「特色ある図書類のコレクション」の形成を、主体的かつ長期的・計画的に始めることを企画しました。このコレクションの主題としては、本学の歴史と本学が果たしてきた役割に鑑み、「東西両文化の接触と受容・相互に及ぼした影響。西欧近代諸国の東方政策形成の基礎となった東洋文化理解」とし、具体的には「アジア世界の情報が刊本の形で西欧社会で出版され、西欧近代諸国のアジア文化の理解やアジア政策の展開に大きな影響を与えた図書等資料の蒐集」という内容を考えました。今回は、本学の設備助成予算を活用し、蒐集を行いました。

今回購入した図書資料は、総計38点、うち9点は古地図です。中国情報がまとまった形で西欧社会に伝えられたのは、明代後期以降中国で伝道に当たっていたイエズス会士の報告書によります。彼らは当時の西欧文化の各分野に造詣が深く明代以降から清代前期にかけて、彼らのもたらした西欧の知識や技術は中国中枢部で高く評価され、中国世界にも大きな影響を及ぼしました。また、彼らが本部に送った報告書は、多くの中国情報をヨーロッパ世界に伝えました。今回、入手した図書にはイエズス会関係図書やアヘン戦争に先立って得られた中国情報に関する図書のいくつかがあります。また、アヘン戦争・南京条約以降は、西欧人による中国世界の調査や旅行が可能になり、残された図書資料も格段に増えました。今回入手の図書にもその何点かが含まれており、中には貴重書も含まれています。



グスマン《東方伝道史—1540-1601年間》全2冊 初版

問い合わせ先 図書情報課  
TEL.022-264-6491  
URL <http://www.lib.tohoku-gakuin.ac.jp>  
E-mail [query@lib.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:query@lib.tohoku-gakuin.ac.jp)

## Admissions info.

### 入試センターより

## 入学試験開始～AO入試始まる

平成18年度入学試験が始まりました。AO入試の第一次選抜の面接試験を皮切りに、AO入試第二次選抜試験、編入学試験、推薦入試、大学入試センター試験利用入学試験、一般入学試験(前期、後期)と各種の入学試験が実施されます。

AO入試の第一次選抜の面接に、緊張した顔で臨む受験生を見ると、「頑張っよ」という気持ちになります。特に、進学相談会などでお話をしたことのある受験生には、思わず声をかけたくりますが、そこは「受験は公平に、が第一原則」を思い出して、声をかけずに通り過ぎます。「あの先生、相談会では愛想がよく、丁寧に説明してくれたのに、どうして声を掛けてくれないんだろう」と不安に思うのではないだろうかとも思います。とにかく、精一杯頑張っよほしいと思うばかりです。

AO入試の第一次選抜の面接試験は30分程度(異なる学科もあります)ですから、受験生にとっても大へんなものですが、面接をする先生にとっても、これまた大へんな試験です。「できる限り、良いところを見てあげよう」、「学習意欲がわかるような質問をしてあげよう」、「上がっているようだから、少し緊張をほぐすような質問をしてあげよう」等々、面接にあたっては、本当に神経が消耗してしまいます。すべての受験生に公平な面接を行う、ということにも緊張が強いられます。

すべての入学試験の中で、高校側から問い合わせが最も多いのはAO入試です。一般入試とは異なり、AO入試では受験生の学力、意欲、適性などをみながら学科ごとに異なるAO入試における評価項目に基づいて、各学科は総合的・客観的に合否判定を行っています。この点で、高校側の予想に反した判定結果となることもあるようです。AO入試における各学科の重要評価項目などについては、さまざまな機会でお話していますが、今後とも、さらなる情報発信に努めたいと思っています。

問い合わせ先 入試課  
TEL.022-264-6455  
E-mail [nyushi@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:nyushi@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

## 本学における平成17年度の就職予測と就職部の支援活動行事について

本年度は、昨年度に比べ、景気の拡大基調がより実感できる出足となっています。しかしながら、企業はますます質の高い人材を求める傾向にあり、その点は学生も実感しているようです。地元企業への固執や大手企業への執着がどうしても拭えない状況ではありますが、チャンスをつかむかを考えると、道を切り開いてほしいものです。結果はまだ見えませんが、昨年度よりは就職率が上回るものと期待しています。

例年実施される行事を充実させることはもちろんですが、本年度の新規就職部の行事として、5月21日に後援会総会のプログラムのなかで、父母のための就職講演会「学生の就職を考えるセミナー・親は子供の究極のサポーター」を初めて実施しました。このセミナーに参加されたご父母には大変好評でしたし、今後も実施してほしいと要望が寄せられています。

また、9月20日には後援会と就職部の主催で「4年生に対する企業と学生の就職セミナー」を新たに企画しました。地元企業や本学への思い入れのある企業の方々のご協力を得て、就職活動中の学生に対し、多くのチャンスが与えられるように考えた就職支援です。

3年生に対する、就職意識醸成型のインターンシップは、2年目を迎え、参加希望学生の増加傾向とニーズに応えられるように、協力いただける企業を近県3県まで広げることとなりました。10月から本格的に実施されます3年生の就職支援行事については、グループ面談やガイダンス、講演会などが緻密に準備されており、就職活動の早期化と就労意識の拡大に向けての対策にあたっています。

問い合わせ先

土樋キャンパス就職課

TEL.022-264-6481 FAX.022-264-6486

多賀城キャンパス就職係

TEL.022-368-1101 FAX.022-368-1118

泉キャンパス就職係

TEL.022-375-1161 FAX.022-375-1534

### 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、次の事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

#### 【募金目標額20億円】

1. 東北学院大学キャンパス整備
2. 東北学院中学校高等学校校舎建設
3. 東北学院榴ヶ岡高等学校体育館および管理棟建設
4. 東北学院会館(仮称)建設
5. 東北学院英奨学基金の増額

詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL.022-264-6467 FAX.022-264-6510

#### 東北学院大学

##### ■土樋キャンパス

大学院:文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
法務研究科

学 部:文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、  
夜間主コース

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

##### ■多賀城キャンパス

大学院:工学研究科

学 部:工学部

〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

##### ■泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科

学 部:工学部・経済学部・法学部(各1・2年)、  
教養学部

〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

#### 東北学院中学校・東北学院高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1  
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

#### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

#### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



#### ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.20

#### 広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	高橋 征士
編集長	経済学部教授	原田 善教
委員	宗教部長	佐々木哲夫
	文学部教授	楠 義彦
	経済学部助教授	白鳥 圭志
	法学部教授	塩屋 保
	工学部教授	淡野 照義
	教養学部教授	木戸 眞美
	総務部次長	菅野 健
	総務部総務課長補佐	斎藤 信二
	総務部総務課係長	山本 隆夫
	総務部総務課	薬科 明宏

東北学院大学広報誌「OY PANOS」(ウーラノス)に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

#### 本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。

発行日 平成17(2005)年10月20日

編集 東北学院大学 広報誌編集委員会

発行 東北学院大学

〒980-8511

仙台市青葉区土樋一丁目3番1号

TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030

URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

E-mail [tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)

印刷 (株)エイエイピー



古紙配合率100%再生紙を使用しています

この印刷物は環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています